

事例⑩

知的障がいのある児童の学習意欲を高める教師の関わり方の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 文字を書くことに苦手意識のある子どもが、学習に対して意欲的になれなかったり、失敗すると感情的になってしまったりして、どのように支援したらよいか分からない。

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

ファーストステップ！

◆例えば、「生活単元学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 生活単元学習「おしょうがつをたのしもう」
- 小学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・ 年賀状を書く活動を通して、経験したことや想像したことなどから身近な人に伝えたいことを明確にしたり、文字の形に注意しながら丁寧に書いたりすることができる。

ファーストステップ②

- ・ 児童が自分で文字の形を確かめながら年賀状を書けるよう、文節ごとに文字の形を黒板や端末上に提示しましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 本時の流れ ○ これまでの学習の振り返り ○ <u>年賀状を送る相手とその理由について交流</u>	※年賀状を送る相手とその理由について考える時間を保障する。
展開	○ <u>本時の学習課題</u> ・ 「あけましておめでとう」を文字の形に注意しながら丁寧に書く。 ○ 年賀状を書く。	※年賀状の見本を提示する。 ※文節ごとに文字を提示する。
終末	○ <u>完成した年賀状を見せ合う。</u> ○ 振り返りと次時の活動の見通し	※表情カードを提示し、書いた感想を交流させる。

ファーストステップ①

- ・ 本時の流れや学習課題を示すし、見通しをもたせましょう。
- ・ 年賀状を送る相手とその理由を交流し、相手を喜ばせたいという思いをもたせて活動への意欲を高めましょう。

ファーストステップ③

- ・ 表情カードを用いて年賀状を受け取った相手の気持ちを想像させるなど、自分の頑張りが相手の喜びにつながるという実感をもたせましょう。

